

平成 25 年度事業報告書

I 会 議

1 総 会

(1) 第 58 回通常総会 平成 25 年 6 月 19 日 仙台市・JA ビル宮城 11 階大会議室

会員総数 67 会員

出席会員数 58 会員 (本人出席 31 会員、委任状 27 会員)

議 案

第 1 号議案 平成 24 年度事業報告書並びに決算報告書承認に関する件

(2) 臨時総会 平成 26 年 3 月 4 日 仙台市・JA ビル宮城 11 階南会議室

会員総数 67 会員

出席会員数 59 会員 (本人出席 30 会員、委任状 29 会員)

議 案

第 1 号議案 平成 25 年度事業計画の変更並びに収支補正予算案承認に関する件

第 2 号議案 平成 26 年度事業計画並びに収支予算案承認に関する件

第 3 号議案 平成 26 年度会費に関する件

第 4 号議案 平成 26 年度一時借入金最高限度額に関する件

第 5 号議案 平成 26 年度役員報酬に関する件

2 理 事 会

(1) 第 1 回理事会 平成 25 年 6 月 13 日 仙台市・JA ビル宮城 6 階特別会議室

議 案

第 1 号議案 平成 24 年度事業報告並びに決算 (案) の承認について

第 2 号議案 一般社団法人宮城県畜産協会肉用牛肥育経営安定特別対策事業業務方法書(案)について

第 3 号議案 一般社団法人宮城県畜産協会肉用牛肥育経営安定特別対策事業に係る第 2 業務対象年間の事務手数料について

第 4 号議案 一般社団法人移行に伴う肉用子牛生産者補給金制度に係る事務委託先の指定について

第 5 号議案 通常総会の開催期日並びに提出議案について

(2) 第 2 回理事会 平成 26 年 2 月 7 日 仙台市・JA ビル宮城 10 階第 2 会議室
報告事項

1) 肉用牛肥育経営緊急支援事業に係る緊急支援金の返還について

2) 家畜取引情報体系整備事業補助金 (運営特別基金) の返還について

3) 宮城県牛乳協会からの業務委託について

議 案

第 1 号議案 平成 25 年度事業計画の変更並びに収支補正予算 (案) について

第 2 号議案 平成 26 年度事業計画並びに収支予算 (案) について

第 3 号議案 平成 26 年度会費について

第 4 号議案 平成 26 年度一時借入金最高限度額について

第 5 号議案 平成 26 年度役員報酬について

第 6 号議案 家畜畜産物衛生指導業務方法書の一部改正について

第 7 号議案 臨時総会の開催期日並びに提出議案について

- 3 監事会 平成25年6月6日 JAみやぎ仙南
 平成25年6月7日 宮城県畜産協会 2階会議室
 監査事項 平成24年度事業報告並びに決算報告に関する監査

II 畜産経営の支援事業

1 畜産経営技術高度化促進事業（宮城県：実績額 5,022,035円）

畜産をめぐる情勢の変化に対応し、経営感覚に優れ生産性の高い畜産経営体の育成と指導者の養成を図り、経営体のレベルの向上と実態に応じた診断指導、調査等総合的な支援指導を実施し、畜産経営の安定と生産基盤の育成強化に努めた。

(1) 畜産経営支援指導研究会の開催

畜産経営技術指導を効果的かつ効率的に実施するため、畜産の実情に対応した将来の畜産経営指導の展開方向、具体的な指導内容・方法及び関係機関の機能分担等について検討協議するため、県及び関係団体をもって構成する総合委員会を開催した。

区分	開催年月日	出席者数	開催場所	内容
総合委員会	平成25年7月3日	16名	仙台市	①畜産施策の基本方針と主要施策について ②畜産経営技術高度化促進事業について

(2) 畜産コンサルタント団の設置

大学、県及び畜産関係団体、学識経験者等幅広い分野の専門家をもって構成する畜産コンサルタント団を設置し、畜産経営体からの診断及び巡回指導要請に対応した指導を実施した。

※ 畜産コンサルタント団設置の状況

総括畜産コンサルタント	畜産コンサルタント	非常勤畜産コンサルタント
2名	8名	23名

(3) 地域畜産経営体相談窓口指導

畜産経営体の支援指導を円滑に推進するため、日常的な経営体の状況把握・指導、地域における指導の連絡調整等指導相談の窓口を設置し、畜産経営体等からの延113件の相談・要請に対応した支援指導を実施した。

区分	設置場所	担当地域
常設	宮城県畜産協会 本所	県一円
	宮城県畜産協会 仙南事業所	仙台、大河原管内
	宮城県畜産協会 中央事業所	大崎、石巻管内
	宮城県畜産協会 仙北事業所	登米、栗原管内
臨時	みやぎ総合家畜市場（市場開設時）	県一円

(4) 畜産経営技術指導用機器の整備

畜産経営体の支援指導を効果的かつ効率的に実施するため、コンピューター等関連機器を整備した。

(5) 畜産経営技術支援指導

畜産経営体の要請に基づき、その経営水準、実態等に対応した診断指導を実施し、経営改善のための効果的な支援指導を実施した。

畜産経営技術の支援指導実施状況（個別指導）

経営区分	改善指導	経営管理 技術指導	フォローアップ 指 導	計	備 考
酪 農	2 件	63 件	23 件	88 件	
肉用牛	1 件	8 件	1 件	10 件	
養 豚	0 件	0 件	0 件	0 件	
養 鶏	0 件	0 件	0 件	0 件	
計	3 件	71 件	24 件	98 件	

(6) 情報提供体制事業

パソコン通信網を活用した総合的な畜産関係情報の提供を図るため、ネットワークの開設と各種情報のデータベースを構築し、畜産経営技術の高度化に対応した効率的な支援指導を実施した。

(7) 地域情報データベースの構築

主要な担い手の育成と経営の自己分析の充実を図るため、データ提供等の支援を実施した。

登録農家（戸）					
酪 農	肉用牛				合 計
	繁殖	肥育	一貫	小計	
339	11	6	4	21	360

(8) 畜産経営セミナー、交流会の開催

近年の畜産経営体の飼養規模拡大にともない、飼養管理の改善及び新技術等をテーマにセミナー等を開催した。

開催年月日	開催場所	参加人数	セミナーの具体的内容
平成 25 年 6 月 20 日	加美町	55 名	養豚セミナー ①これからできる夏場対策の工夫について ②夏場対策 受胎率と産子数の改善について
平成 26 年 1 月 21 日	大河原町	46 名	経営継承研修会 ①畜産におけるスムーズな経営継承について
平成 26 年 2 月 28 日	大崎市	191 名	肉用牛セミナー ①子牛の疾病予防対策
平成 26 年 3 月 25 日	美里町	27 名	モーモー母ちゃんの集い ①「全国モーモー母ちゃんの集い IN 宮崎」報告 ②平成 29 年度開催宮城全共に向けて

(9) 研修事業への参加

畜産経営指導事業並びに組織運営に必要な専門的知識及び技術の習得を図るため、中央畜産会等が主催する研修等に職員を派遣し、事業の円滑な推進に努めた。

開催年月日	開催場所	参加人員	研修内容
平成25年7月 8～10日	福島県西郷村	1名	養豚（基礎）
平成25年10月 21～25日	福島県西郷村	1名	肉用牛生産技術指導者養成 B
平成25年10月 21～25日	福島県西郷村	1名	酪農（基礎）
平成25年7月 16～17日	宮崎県都城市	1名	全国モーモー母ちゃんの集い IN 宮崎
平成25年7月 30～31日	美里町南三陸町	1名	地域和牛生産性向上女性部協議会研修会
平成25年8月 28～30日	東京都	1名	経営指導技術向上事業に係る新任基礎研修
平成26年1月 24日	東京都	1名	畜産経営活性化サポートツール全国会議

2 畜産経営技術指導事業（地方競馬全国協会：実績額 10,088,000円）

畜産農家の育成と経営の安定的発展を図るため、県並びに関係団体と連携の下に、基幹職員を配置し畜産経営指導、畜産物消費拡大、馬事振興等の多岐に亘る業務を実施した。

- (1) 畜産の担い手育成・確保・増強に向けた体制強化を図る事業
- (2) 地域畜産に対する理解増進等畜産関連公益活動体制の強化を図る事業
- (3) 馬事・畜産普及啓発の推進体制の強化を図る事業

3 畜産特別資金指導推進事業（中央畜産会：実績額 4,249,243円）

畜産特別資金利子補給事業の円滑な実施を図るため、宮城県大家畜・養豚経営改善推進協議会を中心とした畜産特別資金借受者17戸（酪農6戸、肉用牛10戸、養豚1戸）の農家に対し巡回指導を実施し、経営の安定合理化に努めた。

4 畜産機械施設貸付調査指導事業（畜産近代化リース協会：実績額 778,613円）

畜産近代化リース協会より貸付された1戸に対し、1基のバルククーラーの管理利用状況について調査指導を実施するとともに、事業の推進を図った。

5 畜産関係団体調整機能強化事業（中央畜産会：実績額 138,679円）

畜産経営に携わる女性を対象に、生産・経営技術の向上や低コスト生産、更には家畜改良振興・後継者育成及び消費者対策等についての情報・意見交換を行い地域の活性化を図り、女性ネットワークの構築を図った。

6 地域における多様な肉用牛経営実現支援事業（農畜産業振興機構：実績額 23,524,982円）

近年における肉用牛生産を取り巻く状況を踏まえ、今後の肉用牛生産基盤の強化を図り、肉用牛の生産振興、生産性の向上を図る事業を支援するため、肉用牛生産集団等が行う事業に対し補助した。

(1) 地域における多様な肉用牛経営実現支援事業

区 分	事 業 内 容	農協・集団名
1 中核的担い手育成増頭推進	中核的担い手生産者が、増頭した繁殖雌牛への奨励金交付 (17戸、67頭)	みやぎ仙南、仙台、あさひな、古川、加美よつば、みどりの、栗っこ、宮城県配合飼料価格安定基金協会 (計 8農協等)
2 優良繁殖雌牛導入支援	地域の和牛改良に必要な優良繁殖雌牛の導入に対して奨励金交付 (156戸、225頭)	みやぎ仙南、あさひな、古川、みどりの、栗っこみやぎ登米 (計 6農協等)
3 繁殖雌牛の増頭に資する簡易牛舎等の整備	増頭を要件とする簡易牛舎等の整備 (パイプハウス牛舎5棟)	加美よつば (計 1農協)
4 肉用牛ヘルパー推進	肉用牛ヘルパー活動の推進 (傷害保険料、ヘルパー利用料金)	みどりの和牛繁殖部会 JA 栗っこ肉用牛ヘルパー部会 みやぎ登米肉用牛ヘルパー部会 (計 3集団)

7 肉用牛肥育経営緊急支援事業

(農畜産業振興機構 資金貸付事業： 実績額 7,689,370,000円)

福島第一原発放射能汚染稲わら被害を受けた肥育牛生産者の資金繰りを図るため、独立行政法人農畜産業振興機構からの資金補助により、出荷制限指示日の平成23年7月28日現在で飼養していた肥育牛で一定対象要件を満たした牛へ下記のとおり各種支援金を平成23年度に交付した。

平成25年度は、緊急支援金等交付対象者へ返還請求書を発行し、農畜産業振興機構への返還業務を実施した。

(1) 緊急支援金等交付実績

資金名	対象者数(人)	交付頭数(頭)	交付金額(円)
緊急支援金	501	37,026	1,851,300,000
出荷遅延支援金	315	7,958	5,758,440,000
価格低下支援金	61	510	79,630,000
計	延べ877	45,494	7,689,370,000

(2) 返還額(生産者からの返還額)

資金名	返還済額(円)				未返還額(円)
	23年度	24年度	25年度	計	
緊急支援金	471,700,000	655,100,000	673,550,000	1,800,350,000	50,950,000
出荷遅延支援金	644,320,000	2,168,030,000	1,684,080,000	4,496,430,000	1,262,010,000
価格低下支援金	170,000	49,570,000	18,530,000	68,270,000	11,360,000
預り金	0	0	5,910,000	5,910,000	▲5,910,000
計	1,116,190,000	2,872,700,000	2,382,070,000	6,370,960,000	1,318,410,000

- 8 民間グループ被災畜産農家救済活動推進事業（被災地畜産振興に係る人的支援事業のうち生産者団体支援）（畜産経営支援協議会：実績額 6,703,568 円）

肉用牛肥育経営緊急支援事業において、原発放射能汚染による牛枝肉出荷の自粛を行った肥育牛生産者へ対して、緊急支援金、出荷遅延支援金、価格低下支援金の交付と返還等に関する事務業務を実施した。

- 9 民間グループ被災畜産農家救済活動推進事業（畜産経営支援協議会：実績額 3,097,865 円）

福島第一原発の放射能汚染事故に伴う畜産物の風評被害など、被災地畜産に係る理解醸成を図るため、県内産畜産物の試食・即売会等による「食べて応援しよう」キャンペーンを開催し畜産物の需要回復を図った。

また、畜産経営支援協議会からの貸与された放射能測定器（サーベメーター）を、宮城県畜産課及び東部地方振興事務所へ再貸与し、廃用牛の放射性セシウム濃度を生体で測定し、新基準値を超える牛のと畜を回避し、風評被害の発生防止等に努めた。

項目	実施日	場所	内容	備考
食べて応援しよう キャンペーン	平成 25 年 10 月 27 日	三井アウトレットパーク仙台港	県内農畜産物の試食・販売	8 業者出店 2,500 人来場
	平成 25 年 11 月 9・10 日	東京都日比谷公園	「ファーマーズ&キッズフェスタ 2013」で宮城県産和牛の試食	2 日×300 人へ焼肉試食
	平成 25 年 11 月 23・24 日	東京競馬場	各競馬場において、抽選による畜産物加工品、仙台牛の抽選配布。	延べ配布数 レトルトカレー 2,000 個 仙台牛 5 点
生体計測 技術促進 に係る放 射能測定	平成 25 年 4 月～ 平成 26 年 3 月	みやぎ総合家畜市場	生体測定	成畜市場に上場される廃用牛の測定(毎月 1 回)
	平成 25 年 5 月～11 月	石巻市上品山牧場	生体測定	月 1 回入牧牛の測定

- 10 養豚経営安定対策事業（農畜産業振興機構：実績額 831,670 円）

養豚事業者等を対象とした事業の説明会並びに勉強会等を、下記のとおり開催し事業の円滑な推進を図った。

内容	開催日	開催場所	参集者
事業説明会	平成 25 年 5 月 21 日	登米合同庁舎	生産者他 28 名
	22 日	大崎合同庁舎	24 名
	24 日	大河原合同庁舎	10 名

- 11 養豚経営安定対策事業（生産者委託：実績額 548,235 円）

独立行政法人農畜産業機構からの養豚補てん金直接交付方式への完全移行に伴い、生産者 17 戸との委託契約に基づき、書類申請及び関係書類保管等に関する助言指導等を実施し、養豚経営安定に資した。

- 12 乳用牛初生牛生産費調査事業（中央畜産会：実績額 176,570 円）

肉用牛振興及び各種施策等の基礎資料に供するため、10 戸の酪農家を対象に乳用牛初生牛の飼養管理状況及び生産費用等の調査を実施した。

13 災害時緊急対応型システム畜舎確立事業（中央畜産会：実績額 809,211 円）

緊急時に迅速かつ安価に建築できる革新的な「システム畜舎」の建築技術の確立を行い、被災地における畜産の復旧・復興に資するため、地域における畜産関係者の意見を聴取するための現地検討会を開催した。

区 分	開 催 日	場 所	人数	内 容
酪農対尻式検討会	平成 25 年 9 月 25 日	蔵王あぐり牧場(川崎町) 茂庭荘(太白区)	18 名	蔵王あぐり視察 酪農システム畜舎設計 (案)について
肉用牛繁殖検討会	平成 26 年 2 月 13 日	橋本拓未牧場(色麻町) よつば館(加美町)	26 名	橋本牧場視察 肉用牛繁殖システム畜舎 設計(案)について

Ⅲ 家畜自衛防疫の支援事業

1 自衛防疫推進事業（協会独自事業：実績額 3,854,604 円）

自衛防疫事業を円滑に推進するため、自衛防疫推進会議並びに各地域指定獣医師定例会を開催し、家畜衛生に関する知識の普及や情報の収集・伝達に努めた。

(1) 家畜自衛防疫推進会議等の開催状況

名 称	場 所	開催回数	出席人数	備 考
① 家畜自衛防疫推進会議	仙台市内	1 回	22 人	県、家畜保健衛生所職員等
② 家畜衛生専門委員会	〃	1 回	13 人	県、家畜保健衛生所長等

(2) 指定獣医師定例会の開催状況

地域名	場 所	開催回数	出席人数	内 容
仙 南	大河原町	4 回	55 人	①平成 24 年度特定疾病自衛防疫推進事業実績 ②平成 25 年度特定疾病自衛防疫推進事業計画 及び進捗状況 ③最近の家畜衛生情報 ④子牛市場成績 等
中 央	仙 台 市	4 回	44 人	
大 崎	大 崎 市	4 回	78 人	
栗 原	栗 原 市	4 回	56 人	
登 米	登 米 市	4 回	47 人	
石 巻	石 巻 市	4 回	52 人	
合 計		24 回	332 人	

(3) 家畜自衛防疫事業推進事務交付金交付実績

交付先	交付金額	備考
市町村 (30) 及び 農業協同組合 (13)	1,153,700 円	注射負担金額 (牛アカバネ病等) 115,662,400 円×1%以内

2 特定疾病自衛防疫推進事業 (協会独自事業：実績額 134,367,440 円)

家畜伝染病の発生予防及びまん延防止のため、地域ぐるみで予防接種を推進し、伝染病発生による損耗防止に努めた。

予防接種の種類	地域別接種頭数 (頭)						合計
	仙南	中央	大崎	栗原	登米	石巻	
(1) 豚丹毒ワクチン (生)	18,377	43	6,524	3,520	14,598	0	43,062
(2) 豚丹毒ワクチン (不)	0	0	1,000	0	0	0	1,000
(3) 豚日本脳炎ワクチン (生)	0	0	0	125	491	0	616
(4) 豚日本脳炎ワクチン (不)	0	0	40	280	0	0	320
(5) 豚三種混合ワクチン	327	0	463	29	233	180	1,232
(6) 豚伝染性胃腸炎ワクチン	0	0	0	20	122	0	142
(7) 豚オーエスキー病ワクチン	0	0	3,970	0	28,650	0	32,620
(8) 豚パルボウイルスワクチン (不)	0	0	3	0	0	0	3
(9) 牛アカバネ病ワクチン (生)	2,509	1,742	9,329	3,902	5,942	1,485	24,909
(10) 牛炭疽ワクチン (生)	4,827	1,675	4,568	1,392	1,407	813	14,682
(11) 牛五種混合ワクチン (生)	1,299	970	5,701	3,152	4,970	1,061	17,153
(12) 牛六種混合ワクチン (生)	4	0	0	0	0	0	4
(13) 牛ヘモフィルスワクチン (生)	1,360	1,007	5,485	3,178	5,097	1,176	17,303

3 家畜生産農場清浄化支援対策事業 (農林水産省：実績額 14,181,626 円)

生産農場における牛ヨーネ病の防疫対策、豚オーエスキー病の清浄化対策及び牛アカバネ病の発生・流行防止対策を推進し、これら疾病による家畜の損耗防止を図った。

(1) 疾病清浄化支援対策

ヨーネ病のまん延防止並びに早期清浄化を促進するために家畜飼養者が自主的に行う同居牛等のとう汰を支援し、まん延防止に努めた。

また、豚オーエスキー病の清浄化を図るため、県及び地域の防疫対策協議会を開催するとともに、発生状況に応じたワクチン接種、抗体検査、感染豚の淘汰等の対策を講じ、清浄種豚の流通を促進し、養豚経営の安定に努めた。

区 分	戸 数	頭 数	備 考
① 豚オーエスキー病 ワクチン接種推進費	14 戸	29,537 頭	29,537 頭×@38 円=1,122,406 円
② 豚オーエスキー病 清浄性確認検査	16 戸	272 頭	272 頭×@1,000 円×1/2=136,000 円
③ 豚オーエスキー病 流通種豚確認検査	6 戸	9,191 頭	検査9,191 頭×@1,000 円×1/2=4,595,500 円 証明書 275 件×@400 円×1/2=55,000 円

(2) 農場飼養衛生管理強化対策

家畜伝染病予防法の一部改正により、生産者の遵守すべき飼養衛生管理基準が大幅に見直され、生産者に対し同基準を早期に遵守するため、獣医師等による衛生指導の強化を図り、これら費用の一部を支援した。

地 域	農家戸数	指導回数	備 考
中 央	11 戸	22 回	酪農(11)
大 崎	17 戸	34 回	酪農(16)、肉用牛(1)
計	28 戸	56 回	

(3) 伝染病発生・流行防止対策

牛異常産の原因である牛アカバネ病の発生を防止するため、ワクチン接種による対策を講じ、本病発生による損耗の防止に努めた。

ワクチンの種類	接種頭数	備 考
牛アカバネ病	24,909 頭	補助対象：24,000 頭

4 育成馬予防接種推進事業（中央畜産会：実績額 105,909 円）

馬飼養形態の集団化、大規模化及び頻繁な移動等の実態を踏まえ、競馬場入厩前の育成馬について予防接種（日本脳炎・破傷風・馬インフルエンザ）の徹底を図った。

ワクチンの種類	接種戸数	接種頭数
(1)馬三種混合ワクチン	6 戸	13 頭
(2)馬インフルエンザワクチン	5 戸	6 頭

5 生産地等馬伝染性疾病防疫強化特別対策事業（中央畜産会：実績額 588,000 円）

生産地における馬飼養形態の集団化および頻繁な移動等による馬鼻肺炎及び馬インフルエンザ等のまん延の実態を踏まえ、防止対策として軽種馬の繁殖牝馬及び乗用馬等に対し予防接種の徹底・強化を図った。

また、ワクチン接種の推進、新興感染症についての普及・啓発を図り、馬伝染性疾病的発生予防等効果的な防疫措置のための検討を図った。

(1) 地域馬伝染性疾病防疫強化推進対策事業

区 分	開催回数	出席人数	備 考
地域防疫推進会議	2回	24名	(一社)宮城県軽種馬協会、町、県畜産課 及び家畜保健衛生所の担当者

(2) 馬のワクチン接種推進事業

ワクチンの種類	対象馬	接種戸数	接種頭数
馬インフルエンザワクチン	競走馬以外の乗用馬	6戸	108頭
馬鼻肺炎ワクチン	軽種馬等の繁殖牝馬	5戸	12頭

6 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業 (農林水産省：実績額 38,835,393円)

牛海綿状脳症(BSE)を早期に根絶し、生産者や消費者の安心と信頼を回復するため、牛海綿状脳症対策特別措置法に基づき、24カ月齢以上の死亡牛全頭検査を実施した死亡牛の所有者等に対し、適正な管理・輸送・処理に係る経費を補助し、BSE検査の円滑な推進に努めた。

また、県畜産課、家畜保健衛生所、県域団体、死亡牛収集業者等で構成する宮城県死亡牛緊急処理円滑化施設整備事業推進協議会を開催し、死亡牛の円滑な収集及び処理のための取組と良好な家畜衛生並びに環境の維持を図り畜産の健全な発展に努めた。

(1) 死亡牛検査処理安定対策

区 分	補助対象頭数			単価②	金 額 (①×②)
	県北地域	県南地域	計①		
① 輸送費補助	1,748頭	761頭	2,509頭	4,000円	10,036,000円
② 化製処理補助	1,748頭	0頭	1,748頭	7,500円	13,110,000円
合 計					23,146,000円

*補助対象外頭数：10頭(県北：9頭、県南：1頭)

(2) 死亡牛検査支援対策

区 分	補助対象頭数			単 価	金 額
	県北地域	県南地域	計		
BSE検査補助	1,748頭	761頭	2,509頭	4,500円	11,290,500円

7 家畜防疫互助基金支援事業(農畜産業振興機構：実績額 2,710,766円)

口蹄疫や豚コレラ等の海外伝染病が発生した場合、生産者が飼養する牛及び豚の淘汰に伴う損失を、生産者による自主的な互助制度により畜産経営への影響を緩和するため、各関係者と連携を図り、互助制度の普及啓蒙を図った。

特に、最近、中国や台湾において口蹄疫が継続的に発生しており、国内での流行が懸念されるので、事務委託先等に対し未加入者の加入を推進した。

- (1) 事業実施期間：平成 24 年度～26 年度（3 年間）
 (2) 事務委託先：農協及び酪農団体等 17 団体
 (3) 平成 25 年度契約状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

畜種	契約戸数	契約頭数	積立金額
① 乳用牛	545 戸	19,850 頭	4,550,000 円
② 肉用牛	2,693 戸	84,815 頭	17,220,970 円
小計 (①+②)	3,238 戸	104,665 頭	21,770,970 円
③ 豚	87 戸	157,423 頭	9,566,160 円
合計	3,325 戸	262,088 頭	31,337,130 円

8 畜産物衛生環境整備円滑化事業（協会独自事業、宮城県：実績額 7,070,000 円）

県内で発生する死亡家畜の処理を円滑かつ効率的に流通させるため、一時保管する冷却保管施設及び冷凍運搬車の利用について、死亡牛輸送業者 3 社及び関係者と協議し、家畜疾病のまん延等家畜衛生上の問題発生を未然に防止し、家畜飼養衛生環境の保全に努めた。

また、24 カ月齢以上死亡牛の BSE 全頭検査の採材場所として「宮城県死亡獣畜取扱施設」を利用し、県が実施する検査の円滑な推進に努めた。

(1) 家畜死体冷却保管施設利用頭数

区分		成牛	育成牛	子牛	豚	馬	緬羊・山羊等	計
頭数 (頭)		1,772	846	1,794	4,841	9	27	9,289
重量 (t)		886.00	253.80	179.40	435.69	3.60	2.30	1,760.79
1 日 平均	頭数 (頭)	4.85	2.32	4.92	13.26	0.02	0.07	25.45
	重量 (t)	2.43	0.70	0.49	1.19	0.01	0.01	4.82

(2) 死亡獣畜取扱施設の利用状況

畜種	取扱頭数	取扱対象牛	BSE 検査結果	備考
牛	1,757 頭 (1,748 頭)	24 カ月齢以上の死亡牛	全頭陰性	() 内は補助対象頭数

(3) 家畜死体冷凍運搬車利用頭数

畜種	利用頭数	利用対象牛	BSE 検査結果	備考
牛	762 頭 (761 頭)	24 カ月齢以上の死亡牛	全頭陰性	() 内は補助対象頭数

9 宮城県生乳取扱者認定講習会及びフォローアップ研修事業（酪農団体：実績額 600,000 円）

(1) 認定委員会

学識経験者及び酪農団体の長を認定委員に委嘱し、平成 25 年度事業計画及び宮城県生乳取扱者の認定等について、委員会（委員長：東北大学大学院農学研究科 教授 齋藤忠夫 氏）を開催した。

開催月日	場 所	出席人数	内 容
平成 25 年 8 月 28 日	仙台市青年 文化センター	8 名	①平成 24 年度生乳取扱者研修事業実績 ②平成 25 年度生乳取扱者研修事業計画
平成 25 年 12 月 4 日	仙台市青年 文化センター	9 名	①平成 25 年度生乳取扱者の認定（試験結果及び合否の判定） ②フォローアップ研修会の開催計画

(2) 認定講習会

宮城県における生乳の乳質改善と今後の生乳品質格付け方法の多様化に対処するため、生乳取扱者の生乳等に関する知識及び総合的検査技術の向上と県内統一した基準に基づく生乳の検査、衛生的取扱の適正化を推進するため、講習会を開催し、9 名に認定証の交付を行った。

開催月日	場 所	受講人数	講 習 内 容
平成 25 年 10 月 21 日-22 日	仙台市青年 文化センター	9 名	①酪農乳業情勢 ②生乳の理化学的性状 ③生乳検査体制と検査方法 ④牛乳の微生物と品質管理 ⑤食品衛生法（乳等省令等） ⑥試験

(3) フォローアップ研修会

宮城県内における酪農乳業団体に所属し、受乳、検査、格付及び乳質改善指導等の業務に従事している者で、平成 24 年度までに生乳取扱者認定講習会を受講した職員を対象に、研修会及び意見交換会を実施した。

開催月日	場 所	出席人数	研 修 内 容
平成 26 年 1 月 30 日-31 日	仙台市秋保町 「ばんじ家」	11 名	①東北地域の生乳検査成績及び検査方法について （一般社団法人宮城県畜産協会 総務課長 半田好昭） ②生乳及び乳製品の基礎科学と衛生管理 （東北大学大学院農学研究科 教授 齋藤忠夫 氏）

10 地域自衛防疫強化特別対策事業（家畜衛生対策推進協議会：実績額 1,427,000 円）

地域での伝染病発生時の対応等を支援するため、畜産農家での初動防疫活動、地域特定疾病対策等の検討を行うとともに、生産者段階での防疫演習等の実施、農場立入関連技術者に対する異常畜の早期発見に必要な研修を行い、生産現場における家畜防疫体制の強化を図ることにより、伝染性疾病の発生予防等防疫措置の徹底に努めた。

区 分	開催回数	出席人数	備 考
早期緊急自衛防疫対策 （防疫演習）	3 回	512 名	生産者、市町村、農協畜産団体、県畜産課及び家畜保健衛生所の担当者
早期緊急警告体制整備 （研修会）	1 回	39 名	家畜人工授精師、牛削蹄師、家畜保健衛生所の担当者

11 家畜伝染病防疫対応強化事業（宮城県：実績額 102,060 円）

家畜伝染病予防法の一部改正により、県内の牛及び豚飼養農場を対象に、獣医師による家畜飼養衛生管理状況調査を行い、家畜飼養衛生管理基準の遵守及び啓蒙・普及を図るとともに、防疫対策の強化を図った。

畜種	調査戸数
乳用牛	12戸
肉用牛	10戸
豚	8戸
計	30戸

12 農場HACCP認証普及推進支援対策事業（中央畜産会：実績額 812,000 円）

県内における農場HACCP認証に取り組む農場に対し、取組状況を調査するとともに、これらの農場に対して専門家による構築指導を行い、地域における農場HACCP取組の中核となる農家を育成し、普及推進を図った。

区分	調査戸数	備考
農場取組調査(アンケート調査)	3戸	養豚：1農場、養鶏：2農場
農場HACCP構築指導農場	3戸	同上

IV 価格安定対策事業

1 肉用子牛生産者補給金制度（農畜産業振興機構）

肉用子牛価格の低落に対処するため、生産者、宮城県、国の三者が1：1：2の割合で生産者補給金の交付に備え、生産者積立金を造成した。

今年度は、乳用種及びその他肉専用種に生産者補給金を交付した。

（平成26年3月31日現在の契約生産者は 4,177 戸）

(1) 生産者積立金の造成（実績額 97,111,400 円）

品種区分	契約頭数 (頭)	積立金単価 (円)	積立額 (円)	負担区分 (円)		
				生産者	宮城県	農畜産業振興機構
黒毛和種	18,559	2,200	40,829,800	10,207,450	10,207,450	20,414,900
褐毛和種	103	11,900	1,225,700	306,425	306,425	612,850
その他肉専	80	24,400	1,952,000	488,000	488,000	976,000
乳用種	1,957	12,700	24,853,900	6,213,475	6,213,475	12,426,950
交雑種	5,650	5,000	28,250,000	7,062,500	7,062,500	14,125,000
合計	26,349	—	97,111,400	24,277,850	24,277,850	48,555,700

(2) 肉用子牛生産者補給金の交付実績（実績額 5,642,400円）

期 間	品 種 区 分	交付対象 契約者数 (人)	交付対象 頭 数 ① (頭)	補給金単価 ② (円/頭)	補給金交付額 ③=①×② (円)
1月～3月	その他肉専 乳用種	1	14	33,200	464,800
		11	398	10,600	4,218,800
4月～6月	乳用種	10	564	1,700	958,800
7月～9月	—	0	0	0	0
10月～12月	—	0	0	0	0
品 種 計	その他肉専 乳用種	1	14	—	464,800
		12	962	—	5,177,600
合 計	—	12	976	—	5,642,400

※交付対象契約者数の品種計と合計は、重複された交付対象契約者を1人とカウントしている。

2 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業（農畜産業振興機構）

(1) 運営適正化事業（実績額 20,518,932円）

補給金制度の適正かつ円滑な運営を図るため業務推進会議の開催、事務委託先及び契約生産者に対し調査・指導を実施し、本制度加入の促進及び個体登録業務等の正確かつ迅速化に努めた。また、全国の品種別平均売買価格の算定に資するため、みやぎ総合家畜市場の肉用子牛取引情報を収集し（独）農畜産業振興機構へ毎月報告した。

(2) 運営体制支援事業（実績額 7,062,089円）

肉用子牛生産者補給金制度を適正かつ円滑に実施するため、指定協会の運営体制の強化を図った。

3 肉用牛繁殖経営支援事業（農畜産業振興機構）

肉用子牛生産者補給金制度を補完し、肉用子牛の四半期毎の平均売買価格が発動基準（家族労働費の8割水準）を下回った場合、当該四半期毎に販売又は自家保留された肉用子牛を対象に、発動基準を下回った額の3/4を交付し、繁殖経営の所得を確保し、肉用牛繁殖経営基盤の安定を図った。

なお、肉用子牛生産者補給金制度加入者（4,177戸）のうち3,242戸が事業参加した。

(1) 肉用牛繁殖経営支援地域推進事業（実績額 5,378,661円）

肉用牛繁殖経営支援事業の円滑な推進を図るための助言指導及び推進会議を開催した。

(2) 肉用牛繁殖経営支援事業支援金交付額（実績額 1,832,800円）

期 間	品 種 区 分	交付対象 契約者数 (人)	交付対象 頭 数 ① (頭)	支援金単価	支援金交付額
				② (円/頭)	③ ①×② (円)
1月～3月	その他肉専	1	14	34,500	483,000
4月～6月	その他肉専	1	18	19,500	351,000
7月～9月	その他肉専	2	22	45,400	998,800
10月～12月	—	0	0	0	0
品種計	その他肉専	2	54	—	1,832,800
合 計	—	2	54	—	1,832,800

※交付対象者数の品種計と合計は、重複された交付対象契約者を1人とカウントしている。

4 肉用牛肥育経営安定特別対策事業（農畜産業振興機構：実績額 1,807,752,500円）

肉用牛肥育経営については、もと牛の導入から肥育牛の出荷まで一定の期間を要し、かつ、生産費に占めるもと畜費の割合が大きいことから、もと畜価格と枝肉価格の水準によっては大幅な収益性の悪化が懸念される現状を踏まえ、独立行政法人農畜産業振興機構補助金及び生産者積立金をもって「肉用牛肥育経営安定特別基金」を造成し、毎四半期毎（但し、平成23年7月以降は特例措置として毎月）の肥育牛1頭当たりの平均粗収益が平均生産費を下回った場合、機構理事長が定める単価を上限に肥育牛補てん金を交付し経営の安定と肉用牛生産基盤の維持拡大に資した。

平成25年度内における品種区分別補てん金交付頭数は、交雑種4,076頭、乳用種350頭、合計4,426頭で、延べ戸数346戸に対して191,609,200円の補てん金を交付した。

(1) 推進事務費（実績額 13,035,300円）

(2) 肥育安定基金の造成（実績額 1,794,717,200円）

品 種 区 分	肥育安定基金の負担区分				事業費 (円) ⑤=③+④
	生産者積立金			機構補助金 (円) ④	
	契約肥育牛 頭数(頭) ①	生産者積立金 単価(円) ②	造成額 (円) ③=①×②		
肉専用種	2,908	13,000	37,804,000	957,558,000	/
	15,643	18,000	281,574,000	102,150	
	返還 3	11,350	34,050		
小 計	18,554		319,412,050	957,660,150	1,277,072,200
交 雑 種	3,995	30,000	119,850,000	359,550,000	479,400,000
乳用種	215	30,000	6,450,000	28,545,000	/
	130	25,000	3,250,000		
小 計	345		9,700,000	28,545,000	38,245,000
合 計	22,894		448,962,050	1,345,755,150	1,794,717,200

(3) 平成25年肥育牛特別補てん金交付実績総括表 (交付日 H25 年度実績額 191,609,200 円)

区 分	品種区分	免除の有無	交付対象		肥育牛補てん金	
			人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭/円)	交付額 (円)
平成25年 2月	肉専用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		
	交雑種	通常	28	390	78,300	30,537,000
		免除	0	0	58,700	0
		合計	28	390		
	乳用種	通常	4	20	69,200	1,384,000
		免除	0	0	51,900	0
		合計	4	20		
小 計	合計	32	410		31,921,000	
			0		0	
			410		31,921,000	
平成25年 3月	肉専用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		
	交雑種	通常	26	446	45,800	20,426,800
		免除	0	0	34,300	0
		合計	26	446		
	乳用種	通常	5	27	65,600	1,771,200
		免除	0	0	49,200	0
		合計	5	27		
小 計	合計	31	1,963		22,198,000	
			21		0	
			1,984		22,198,000	
平成25年 4月	肉専用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		
	交雑種	通常	25	364	38,700	14,086,800
		免除	0	0	29,000	0
		合計	25	364		14,086,800
	乳用種	通常	3	38	63,900	2,428,200
		免除			47,900	0
		合計	3	38		2,428,200
小 計	合計	28	402		16,515,000	
			0		0	
			402		16,515,000	
平成25年 5月	肉専用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		
	交雑種	通常	24	288	33,900	9,763,200
		免除	0	0	25,400	0
		合計	24	288		9,763,200
	乳用種	通常	2	37	56,000	2,072,000
		免除	0	0	42,000	0
		合計	2	37		2,072,000
小 計	合計	26	325		11,835,200	
			0		0	
			325		11,835,200	
平成25年 6月	肉専用種	通常	0	0	0	0
		免除	0	0	0	0
		合計	0	0		
	交雑種	通常	25	284	35,200	9,996,800
		免除	0	0	26,400	0
		合計	25	284		9,996,800
	乳用種	通常	2	27	40,700	1,098,900
		免除	0	0	30,500	0
		合計	2	27		1,098,900
小 計	合計	27	311		11,095,700	
			0		0	
			311		11,095,700	

区 分	品種区分	免除の有無	交付対象		肥育牛補てん金		
			人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭/円)	交付額 (円)	
平成25年 7月	肉専用種	通常	0	0	0	0	
		免除	0	0	0	0	
		合計	0	0		0	
	交雑種	通常	29	365	65,400	23,871,000	
		免除	0	0	49,000	0	
		合計	29	365		23,871,000	
	乳用種	通常	4	32	43,200	1,382,400	
		免除	0	0	32,400	0	
		合計	4	32		1,382,400	
	小 計	合計	33	397			25,253,400
				0			0
				397			25,253,400
平成25年 8月	肉専用種	通常	0	0	0	0	
		免除	0	0	0	0	
		合計	0	0		0	
	交雑種	通常	25	268	62,800	16,830,400	
		免除	0	0	47,100	0	
		合計	25	268		16,830,400	
	乳用種	通常	2	28	48,600	1,360,800	
		免除	0	0	36,400	0	
		合計	2	28		1,360,800	
	小 計	合計	27	296			18,191,200
				0			0
				296			18,191,200
平成25年 9月	肉専用種	通常	0	0	0	0	
		免除	0	0	0	0	
		合計	0	0		0	
	交雑種	通常	27	270	53,500	14,445,000	
		免除		0	40,100	0	
		合計	27	270		14,445,000	
	乳用種	通常	3	33	45,500	1,501,500	
		免除			34,100	0	
		合計	3	33		1,501,500	
	小 計	合計	30	303			15,946,500
				0			0
				303			15,946,500
平成25年 10月	肉専用種	通常	0	0	0	0	
		免除	0	0	0	0	
		合計	0	0		0	
	交雑種	通常	27	355	40,000	14,200,000	
		免除	0	0	30,000	0	
		合計	27	355		14,200,000	
	乳用種	通常	3	28	41,700	1,167,600	
		免除	0	0	31,200	0	
		合計	3	28		1,167,600	
	小 計	合計	30	383			15,367,600
				0			0
				383			15,367,600
平成25年 11月	肉専用種	通常	0	0	0	0	
		免除	0	0	0	0	
		合計	0	0		0	
	交雑種	通常	28	388	14,200	5,509,600	
		免除	0	0	10,650	0	
		合計	28	388		5,509,600	
	乳用種	通常	2	37	41,400	1,531,800	
		免除	0		31,000	0	
		合計	2	37		1,531,800	
	小 計	合計	30	425			7,041,400
				0			0
				425			7,041,400

区 分	品種区分	免除の有無	交付対象		肥育牛補てん金		
			人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭/円)	交付額 (円)	
平成25年 12月	肉専用種	通常	0	0	0	0	
		免除	0	0	0	0	
		合計	0	0		0	
	交雑種	通常	26	368	6,900	2,539,200	
		免除	0	0	5,100	0	
		合計	26	368		2,539,200	
	乳用種	通常	2	26	45,300	1,177,800	
		免除	0	0	33,900	0	
		合計	2	26		1,177,800	
	小 計	合計		28	394		3,717,000
					0		0
					394		3,717,000
平成26年 1月	肉専用種	通常	0	0	0	0	
		免除	0	0	0	0	
		合計	0	0		0	
	交雑種	通常	20	290	40,700	11,803,000	
		免除	0	0	30,500	0	
		合計	20	290		11,803,000	
	乳用種	通常	4	17	42,600	724,200	
		免除	0	0	31,900	0	
		合計	4	17		724,200	
	小 計	合計		24	307		12,527,200
					0		0
					307		12,527,200
合 計	肉専用種	通常	0	0		0	
		免除	0	0		0	
		合計	0	0		0	
	交雑種	通常	310	4,076		174,008,800	
		免除	0	0		0	
		合計	310	4,076		174,008,800	
	乳用種	通常	36	350		17,600,400	
		免除	0	0		0	
		合計	36	350		17,600,400	
	小 計	合計		述べ346	4,426		191,609,200

5 肉牛事故共助推進事業 (全農宮城県本部：実績額 44,241,175円)

肉用牛生産者並びに出荷者団体からなる基金を造成し、全農宮城県本部が販売する肉牛に発生する事故に対しその損害を補償し、肉牛経営の安定を図った。

(1) 肉牛事故共助推進事業費 1,374,479円

(2) 肉牛事故共助金 42,866,696円

品種	頭数	金額
肉専用種	613	41,408,136
乳用種	35	814,529
交雑種	15	644,031
計	663	42,866,696

V 家畜改良事業

1 家畜人工授精用精液流通調整事業（協会独自事業：実績額 178,262,278 円）

本県の家畜改良を円滑に推進し、乳牛及び和牛の生産拡大を図るため、宮城県畜産試験場繋養の種雄牛を主体に、県内7ヶ所のサブセンターにおいて、家畜人工授精師等に対し凍結精液の供給と液体窒素の配送を行うとともに、計画的交配の指導を実施し、家畜の改良増殖の推進と畜産経営の安定と発展に資した。

凍結精液供給本数

和 牛			乳 牛	液体窒素	備 考
県有牛	事業団等	計	事業団等		
本	本	本	本	kg	
41,607	8,106	49,713	7,434	43,279	

2 宮城県総合畜産共進会の開催（実績額：2,521,512 円）

家畜の改良意欲の高揚と飼養管理技術の向上を図るため、乳用牛、肉用牛及び肉豚を対象とした総合畜産共進会を開催した。

区 分	開催年月日	開催場所	出品頭数
肉 豚	平成 25 年 9 月 4 日～6 日	登米市 (株)宮城県食肉流通公社	132 頭
乳用牛	平成 25 年 9 月 14 日	美里町 みやぎ総合家畜市場	57 頭
肉用牛	平成 25 年 9 月 13 日～14 日		89 頭

3 種豚登録関連事業（日本養豚協会：実績額 758,205 円）

近年の養豚生産構造の変化に対処するため、登録関連制度の普及啓蒙と質的向上を図るため登録対象豚の選抜並びに適正な登録事業を推進した。

また、交配品種の多様化に伴う素豚の品質低下を防止するため、一代雑種豚血統証明等を含めた種豚登録事業を推進した。

登記・登録実績

(件)

区分	種 豚 登 録	産 肉 登 録	産 子 検 定	一 腹 記 録	血統能 力証明	子 豚 登 記	一代雑種豚 血統証明	各種移動 証 明
実績	184	0	13	227	0	397	68	18

4 乳用牛群検定普及定着化事業（宮城県：実績額 661,500 円）

牛群検定加入者の推進を図るため、検定推進員1名を委嘱し、県内の非検定農家を対象に巡回推進を行い、新たに6戸が加入した。併せて既検定農家の巡回指導を実施した。

(非検定農家推進戸数 38 戸、既検定農家巡回指導 31 戸)

5 乳用種雄牛後代検定事業（家畜改良事業団：実績額 154,000 円）

遺伝的に優れた能力を有することが証明された種雄牛（検定済種雄牛）を計画的に作出し、広域的な利用を行う精液の保管と配送を行った。（調整交配配布本数 770 本）

VI その他

1 専門委員会

家畜衛生事業、和牛改良事業の推進に係る懸案事項について検討するため、各専門委員会を設置し事業の円滑な推進を図った。

2 褒賞の授与

畜産に関する各種共進会、共励会において成績優秀な者に対し褒賞を授与した。

3 畜産普及広報活動

- (1) 県内の畜産情報並びに技術の普及拡大を図るため、「畜産みやぎ」を年6回発行した。
- (2) 月間「畜産コンサルタント」誌並びに指導資料を配布し、畜産技術の普及啓蒙を図った。